

原発事故で岡山へ家族避難 福島医師 救援に戻る

常盤さん 国際貢献大学校と協力

新見市の支援に感謝する常盤さん(左端)と家族。右は激励する石垣市長(新見市役所で)



常盤さんの整形外科医院は海岸から10時にあり、地震の被害はほとんどなかった。しかし、原発からの距離は約25キロで、15日に屋内退避の指示が出たため、やむなく医院を閉め、岡山市の国際医療NGO「AMDA(アムダ)」にいる知人の勧めで16日、妻、子ども3人を避難させるため、一緒に同市にきた。

家族の安全を確保した常盤さんは、一刻も早く、郷里で市民の健康を守る活動を再開したいと希望。アムダが運営に協力している同大学校と、力を合わせるようになった。

常盤さんは、近く南相馬市に帰り、同大学校のメンバーとお年寄りや、避難所に入らずに健康への不安を抱える市民らの支援にあたる。常盤さんは「大学校と力を合わせることで、幅広い支援が可能になる。ひっそりと自宅などにこもり、

不安な日々を送る人の支えになれればと話している。野校営管理者は「地理に詳しい、それも医師が加わることで、情報も増え、きめ細かい活動ができる」と心強く思っている。

しばらく岡山市のアムダ関係者宅に住む常盤さんの長男で6年樹君(12)は「危険な場所でも働こうとする父を尊敬している。母や弟、妹と仲良く岡山で暮らすから安心して古里のために頑張つて」と話していた。

◆ 新見市は24日、市民から集めた毛布など救援物資約10万点を同大学校に託した。引き渡し式には常盤さん、野校営管理者らが出席。常盤さんは「ありがとうございます。皆さんの気持ちと物資を被災地に届けます」と感謝。石垣正夫市長は「今後も困難は続くと思うが、常盤さん、大学校の皆さん、頑張つて」と激励した。

東日本巨大地震による福島第一原発事故で「屋内退避」となり、家族5人で岡山市に避難した福島県南相馬市の整形外科医・常盤聡さん(44)が、被災地の支援活動をしている公設国際貢献大学校(新見市)の一員

として、故郷の支援に立ち上がる。24日、同大学校を訪れ、野野秀利・校営管理者(43)から入救援協力医の委嘱状を受けた。同大学校は今後、常盤さんの医院を拠点に、協力して被災者らの支援にあたる。